

小型モビリティ導入による回遊性向上実証事業

応募様式A

佐賀市小型モビリティ推進プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	佐賀市小型モビリティ推進プラットフォーム
事業実施地域	佐賀県佐賀市
共創の類型	官民共創
他分野共創の類型	スポーツ
共創パートナー	一般社団法人佐賀市観光協会、佐賀市政策推進部企画政策課、株式会社佐賀バルーンズ BRJ株式会社（電動キックボードインフラ提供）、西尾レントオール株式会社
運行形態	電動キックボードシェアリングサービス
運行主体	一般社団法人佐賀市観光協会

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

コロナ禍などの影響により、中心市街地の通行量がコロナ禍以前と比較し、減少・停滞していることを受け、令和5年に策定された佐賀市地域公共交通計画には、令和9年の通行量の目標値を10万人と定め（基準値：令和元年6万3千人）、中心市街地の交通サービス充実のため、電動キックボードシェアリングサービス事業者への支援が盛り込まれている。また、昨年5月にSAGAサンライズパーク内にSAGAアリーナが開業し、年間で67イベントが開催され、49万人の来場者数があったが、最寄りの佐賀駅からは1.5kmほどあり、移動手段もバス・タクシー・徒歩が主体となるため、多くの来場者は、佐賀駅～SAGAアリーナ間の2点間の往復となり、周辺地域や中心市街地での経済効果につなげることができていない。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有

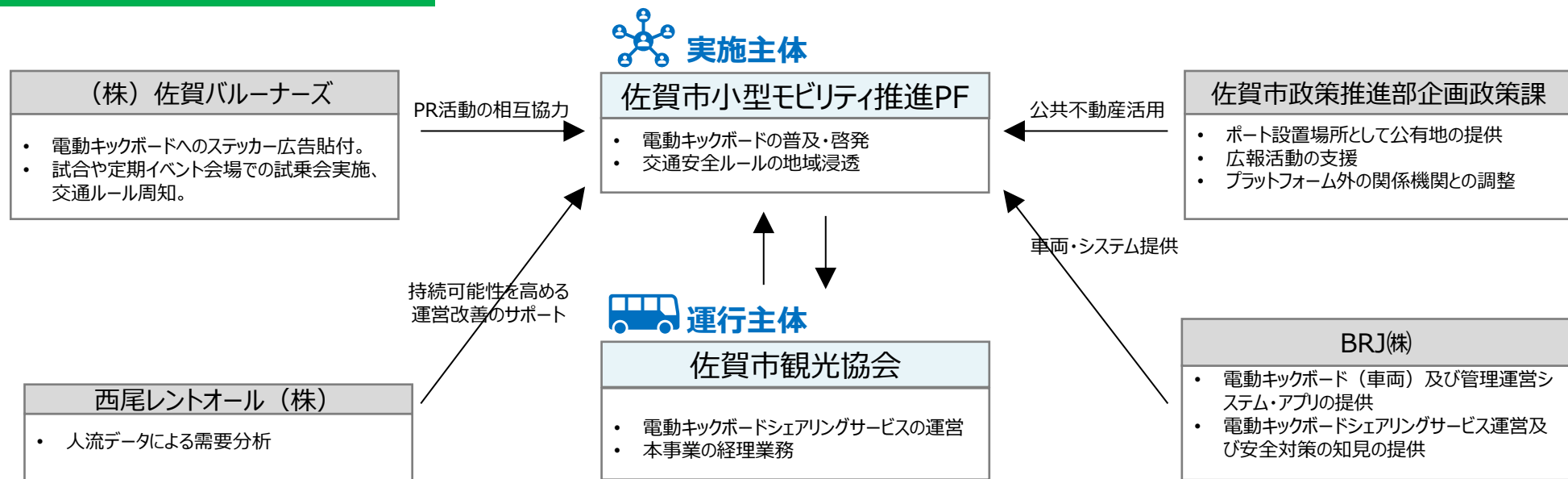
運輸局・運輸支局への事前相談

九州運輸局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

将来的な中心市街地への電動キックボードシェアリングサービスの導入に向け、本事業では、令和6年3月に実施した電動キックボード体験乗車会時のアンケートで最も利用意向の高かった佐賀駅とSAGAアリーナの2地点に電動キックボードシェアリングサービスを展開し、周辺地域や中心市街地への回遊性向上、通行量の増大につながるかを実証する。

(地域の関係者との連携・協働)

佐賀市観光協会が運行主体となることで、他の観光施策や回遊性向上施策と連動した電動キックボードシェアリング事業が展開できる。また、佐賀市が共創パートナーとなることで、佐賀駅・SAGAアリーナ近接の市有地にポートを設置することが可能なため、利便性の高いサービスが提供できる。さらに、SAGAアリーナを本拠地とするB1リーグ所属のプロバスケットボールチーム「佐賀バルナーズ」がパートナーとなることで、ホームゲーム開催時などの連携したPR活動が展開できる。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

市内全てのバス路線の結節点となっている佐賀駅に集まるバス利用者に対し、自由度の高い移動手段の一つである電動キックボードシェアリングサービスを提供することで、交通アクセス全体の利便性向上が路線バスの利用促進につながる可能性について検証する。

事業実施手順・スケジュール

<8月>

BRJは車両の手配開始および佐賀市観光協会へのオペレーショントレーニング実施。西尾レントオールから提供される過去の人流データを分析しポートの設置箇所の選定実施。

<9月> BRJと佐賀バルナーズで電動キックボードの体験乗車会を計画。佐賀市はポート設置に関わる各所調整を開始。プラットフォーム全体では9月末に第一回進捗報告会を実施。そのレポートはBRJが作成。

体験乗車会を実施後、佐賀市観光協会運行主体の電動キックボードシェアサービスの実証運行を開始。

<10月>

二回目の体験乗車会を佐賀バルナーズと計画。

<11月>

第二回報告会の実施（運営の振り返り、利用率を共有して改善につなげる）。第二回体験乗車会の実施。

<12月>

第三回報告会の実施。実証運行終了。

<1月> <2月>

実証期間での最終結果、次年への改善点、運行計画の分析報告の実施。

採択

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム全体			報告	報告	報告	最終報告			
佐賀観光協会		運行 トレーニング	実証運行						
佐賀市企画政策課		ポート 調整							
BRJ(株)		車両の手配 人流分析	体験乗車会 実施		体験乗車会 実施				
西尾レントオール		データ提供		データ提供		データ提供			
佐賀バルナーズ		体験乗車会 企画		体験乗車会 企画					

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

3か月の実証期間内で以下の移動需要と経済効果が創出されると想定。

月間想定利用回数：平日15台 × 1.5回 × 20日 = 450回/月、休日15台 × 2回 × 10日 = 300回/月 合計750回

月間想定売上：平日300円 × 450回 = 135,000円、休日500円 × 300回 = 150,000円 合計285,000円

実証期間（3か月）の利用回数・売上：2,250回・855,000円

（地域全体に及ぶと想定される効果）

利用者の内、半数が1日2回利用するとした場合の月間利用者数は、約500人。

電動キックボード利用時に周辺の小売店や飲食店で一人当たり1,000円消費すると仮定すると、3か月で以下の経済効果が地域全体に及ぶと想定される。

500人 × 1,000円 × 3か月 = 1,500,000円

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

本年度の実証を通じて利用者の利用ニーズを把握し、以下の計画を基本としてポート・車両数を段階的に増やし、中心市街地への実装を進めていく。

令和7年度：ポート数2ポート→3ポート、車両台数15台→20台、年間売上4,560,000円

令和8年度：ポート数3ポート→5ポート、車両台数20台→30台、年間売上6,840,000円

運営については、佐賀市及び関係団体による支援を継続し、地域に根付いた運営体制の構築を進め、今後のサービスの自立的な運営を目指す。佐賀市は、継続して公有地の提供や佐賀城など佐賀県が管理する施設等との調整を担い、サービスの利便性向上を図る。

車両の調達は、補助金の活用や市の予算措置、調達方法の見直しによる初期導入コストの圧縮などを進めることで、事業性を確保しながら更なる拡充を図る。

資金面	補助金の活用、佐賀市の予算措置、市内事業者からの資金援助（協賛金等）、調達方法の見直し
人材面（運転手の確保）	佐賀市観光協会の人員により運営管理を行う。